

令和6年度 宮島学園第1回学校運営協議会

令和6年7月2日(火)14:35～15:30

宮島学園会議室

(参加委員) 菊地 寛 岡田 好江 内山 健 山本 卓士 平岩 透 (欠席3名)
(学 校) 伊豆田 智子 坂田 昇 橋本 浩敬
(教育委員会) 田浦 由紀夫

1 辞令交付、協議会委員紹介、教育長ビデオメッセージ視聴

2 開会

学校長挨拶

・本日は警報発令による休校で、子どもの様子を見ていただくことができなかった。4月に赴任してきて宮島学園は地域の皆様に支えていただいていることをこの3カ月間で実感している。感謝申し上げる。



3 会長・副会長選出

4 議事

○ 学校経営方針説明について

意見・質疑

(委 員) 縦割り班の活動は子どもをととても成長させていると思う。1年生から9年生までが近くで顔を合わせることができるし、上級生が下級生に指導することで、どうやったらわかりやすくなるかを考えることで力がついていっていると思う。運動会の取組での宮島踊りの練習では、上級生が下級生に教えるということをしていて上級生の力がついていると感じている。だから、この縦割り班活動をいろんなところで行っていただき、上級生に自信をもってもらい、高校生になってほしいと思う。宮島の子は小さいころから同じ環境や人間関係で中学校卒業を迎えるので、新たな環境や人間関係は高校生にならないとわからない部分がある。だからこそ他学年交流はとても役に立つと思うので続けていただきたい。

(委 員) 今回配付された「宮島学園の対外的な体験的教育活動」は子どもたちに配布しているのか。

(学 校) 配布していない。

(委 員) この一覧があれば継承ができると思う。

(学 校) 今年度はこれ以外にも新たに取り組むことが発生している。小学校では、前期で宮島のこ

とを学んでおり、中期で三味線や宮島踊り、唄などを練習して披露することを知っている
ので、前期生が中期生に披露した後にインタビューする取組をしている。校内で学びが深
まっている状況がある。

- (委 員) 6年生に向けて宮島踊りの指導をしたが、披露した運動会で終わるのではなく、運動会が
終わった後もフェリーで出会ったときに宮島踊りのことについて質問されたことがある。
この取組が単発で終わるのではなく、継続されていることに喜びを感じる。

○ 令和6年度学校評価について

意見・質疑

- (委 員) 昨年度の熟議で、タイムマネジメントについて宮島で文化等を学んでいくのは良いが授
業が他校よりも遅れることを危惧しているという話が合ったことを覚えている。目標値
の67%という端数はどういうことか。

- (学 校) これまでは島内で学ぶ取組を学校行事として行っていた部分があり、他校ではこのよ
うな学校行事はないので、授業が遅れるという危惧があった。近年は学校行事ではなく授業
としてカリキュラムの中に入れ込むことを進めているので、その心配は減っていつい
る。一例をあげると、4年生の防災教育の取組について、これまでは学校での授業が全て
終わってから取組を行っていたが、昨年度は準備等の学習をカリキュラムに入れ込み、授
業中に準備を終わらせて6時間目が終了した直後に宮島防災訓練に参加するという流れ
をつくった。5年生が秋に取り組んでいる産業について、宮島産業まつりに参加させてい
ただいたが、まつり自体が土日に行われるので、どうしても教職員がしっかり関われない
状況があった。そこで、今年度はしっかり関わられるような取組にしていこうとまつりの実
行主体と連携している。今後もカリキュラム及び学校行事を精選していきながら宮島を
学ぶことを充実させていきたい。

67%というのは、全体の3分の2という意味である。昨年度が63.1%だったので、3分の
2は超えたいという目標でこの数値にした。

- (委 員) 目標値全体を見て、ここだけが端数だったのでとても目立っている。キリの良い数字に
したら良いと思う。

- (委 員) 昨年度の課題を全部出して、それを地域の皆さんに知ってもらい、学園の応援団として
かかわっていただきたいというメッセージがあったと思うが、今年度になってそのこと
について何か変化はあったか。

- (学 校) 学校側から地域の皆さんにお願いできるところはしていき、可能な範囲で協力してもら
うようにしている。逆に地域や他の団体から学校側に協力の依頼が来ることがいくつ
かある。その際には、内容によって子供たちの準備に時間と労力がかかると想定されるこ
とは子どもも教職員も負担になってしまうので、お断りすることもある。先日、グランドの
草抜きについてPTAが動いてくださりきれいに整備していただいた。この取組は今後
PTA役員が変わっていけば地域との関係が変化していき、これまでと同じような取組
が継続できなくなることが考えられるので、持続可能な取組になるようにどうすればよ
いか考えているところである。

- (委員) 学校と地域だけではどうにもできないときは、教育委員会や支所に問い合わせをお願いすることができないものか。
- (学校) 困ったときは教育委員会や支所に相談している。教職員の働き方改革の中でクローズアップされている、休日の部活動指導については、教育委員会と連携してソフトテニス部は外部指導者による活動になっている。小さいことでも相談するようにしている。
- (委員) 地域は学校がかかわってくれることをとても喜んでいて。だが、取組が進んでいけばいくほどそれがあたり前になっていき、地域の皆さんは学校がやってくれるものだと思うがちである。地域の応援団を増やすためには、学校が地域にやってほしいことをどんどん出していけば、地域のみなさんが気付くことがあったり、アイデアを出してもらえることがあったりするのだと思う。
- (学校) 良いアイデアがあれば実現できるか検討していきたい。最近良いなと思っているのは、PTA会長さんを中心として、役員を決めるときに前任が知っている人のみを集めるのではなく、最近増えている島外在住の保護者の方にも役員になってもらう動きをされていることである。学校で行うPTA役員会に出席された場合は、島外在住の方のフェリー代を支出するなどの改革をされている。これにより、宮島の良さ及び課題を島外在住の大人の方にも知ってもらうことができ良いと思う。
- (委員) 教職員の働き方改革は学校の先生だけでは実現できないと思うので、PTAが案を出してこれまで先生が担っていたことを、先生がかかわらない別の方法にしたり、島のまつりについても実行委員会が主体で動いて先生方に負担をかけないようにしたりしている。
- (委員) 昨年度、職場体験で中学生を1名受け入れた。先ほど校内を回らせていただいたが、今年の職場体験の対象の生徒が22名と昨年度より増えているが、体験できる職場は増えているのか。受け入れる職場としたら受け入れ人数が増えてしまうと負担になってしまうから、そういった学校の実情を地域の方に知ってもらい、体験できる職場が増加するのが良いと思う。
- (委員) 学校評価の指標について、本校は小中一貫校なので、小学校1年生から中学校3年生までを対象としている指標になっている。この指標は発達段階に応じて変えているのか。質問の仕方を理解できるように変えたりしているのか。
- (学校) 変えてはいないが、学校評価アンケートをするときなどは担任が補足を加えて回答しやすくしている。
- (委員) 指標の中に「授業で学んだことを生活や他の学習で生かしている」というものがあるが、子どもたちは授業で学んだ何をどこでどうすることが生かすことなのか分かっていないのではないかと思う。大人である我々もどこまでできていたら良いかわからないところがある。だから、発達段階に応じてより具体的な補足をしてしっかり答えられるような指標にしてほしい。
- (委員) 回答している子どもの後ろ側には家庭がある。家庭の思いが子どもに影響している。だから、家庭の思いも知りたい。学校と子ども、地域と子どもという取組ややり取りが多いが、家庭がおろそかになっているように感じる。最近では親が全員働きに出ていて、家庭で子どもと接する時間が少なくなっていて、コミュニケーション能力や道徳心、あいさつ

などを家庭で話をせず学校で力をつけてほしいといった要望があると聞く。以前は家庭で親が子どもと接して身に付けさせていたことを、学校に要望してくる風潮があるように思う。学校と家庭との距離感を縮める取組、先生と親と子どもが一緒になって取り組めるものがあるとよいと思う。

(委員) 先日あった運動会について、以前は夕方まで行っていたが、近年のコロナ禍により午前中の開催となったため、今年度も午前中に開催となったが、なぜ午前中だけなのかと疑問に思っている保護者がいる。だが、現実問題、夕方まで運動会を行う場合は学校だけだと限界があると思うので、例えば子供会の行事を運動会にくっつけるなど、お互いに歩み寄って解決していくことも考える必要があると思う。

(委員) 運動会には保護者の方がたくさん来られていたので、これを利用するのが一つの手だと思った。

○「熟議」15:35～16:45

テーマ：宮島に思いを馳せ文化を継承していくために学校と地域、保護者でできることは何か



Aグループ（3年教室）



Bグループ（4年教室）



Cグループ（5年教室）



Dグループ（6年教室）